

ハマ街ビト

横浜には、独自のサービスや技術の強みを生かした魅力的な企業、団体が数多く存在しています。LTR 独自の視点で他社の参考になる先駆的な取り組みや、新たな挑戦をする企業とヒトをピックアップ。今回は、「企業理念の大切さ」「自律型組織の作り方」などをテーマにしたインタビュー記事をお届けします。

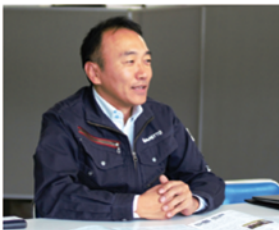
株式会社ニットー



横浜市金沢区にある本社工場

1967年にプレス金型メーカーとして創立し、現在は「金型部門」「プレス・板金部門」「機械加工部門」「治工具・設備部門」の四つの柱でお客さまのニーズに答えている株式会社ニットー。働く人たちは、“ものづくり”に対して熱い想いを持っており、高い技術力を生かして、設計から量産までをすべて自社内で行っているところも特徴です。「企業理念を見直したことで、会社が変わった！」と話す代表取締役の藤澤 秀行(ふじさわ・ひでゆき)さんに、組織づくりのポイントや、人材育成をする上で大事にしていることなどをお聞きしました。

“ものづくり”を楽しむ父の背中を見て、 同じ道へ



株式会社ニットー代表取締役/
アルケリス株式会社代表取締役
CTO 藤澤 秀行さん

—藤澤さんは、幼少期から“ものづくり”に興味があったそうですね。

【藤澤】1967年に父が金型メーカーとして会社(現:株式会社ニットー。創業時は日東工業)を立ち上げました。当時は工場

と住まいが同じ場所にあったので、ものづくりの現場を間近に見られる環境で育ち、自然と興味が湧いていったような気がします。漠然と、「将来は父のような仕事がしたい!」とっていました。

—大学卒業後、1社目(日本発条株式会社)を経て、1997年にニットーに入社されますが、そのときの印象は?

【藤澤】十数名の会社ながら、非常に活気がありました。父の“ものづくりを楽しむ、追求する姿勢”も健在で、独自に金型の仕組みを構築しながら、クライアントとも良好な関係を築いていたように思います。

—2004年、御社にとってターニングポイントとなる出来事がありましたね。

【藤澤】後継者不足だった会社をグループ化しました。今でいうM&Aですね。古くから付き合いのあった「株式会社伏見製作所」、「有限会社田辺製作所」、「有限会社小池慎一製作所」の3社を、4年の間に続けてグループ化することに!実は当初、私はこの話に反対だったんですが、実行した結果、ニットーとしての強みを手にすることになりました。

—具体的には?

【藤澤】何とんでも、各社の持っている素晴らしい技術力を得られたこと。取引先を、そのまま引き継いだことも幸いでした。その後、少しずつ仕事の幅が広がり、あらゆる

業種の顧客を獲得できるようにもなりました。設計から試作、量産までの一貫生産を社内で行えるようになったのも、この決断があったからこそ。本当に良かったと思っています。



入社2年目の女性社員も活躍中!



豊富なマシンの数々に圧倒される

「企業理念」のリニューアルで訪れた変化

—その後、2010年に現在の工場へ本社が移ったのと同時に、すべての会社を集約。当初は、かなり大変だったそうですね。

【藤澤】それまでは経営陣が替わっているものの、業務は各工場で行っていました。だから、社員にとってはそこまで影響がなかったんです。それが一ヶ所に集まったことで、一人ひとりが小さいストレスを抱えるようになり……。備品の管理や資材の置き方にしても、独自のルールがありますからね。

—そこで考えたのが、「企業理念」の見直しだったとか?

【藤澤】はい。しばらくは目立った問題こそないものの、チームワークのようなものは乏しく、気付くとグループ(各社)でまとまってしまう状態でした。そんな中、社員が足並みを揃えて団結するには、新たな企業理念が必要だと思ったんです。当時のものはかなり形式的な内容だったので、「皆でリニューアルしよう!」と提案しました。

—そこから、皆さんとの企業理念づくりが始まったんですね。スムーズに進みましたか?

【藤澤】いや、これが想像以上に難しかったです。企業理念という言葉で構えてしまうのか、最初のころはあまり